

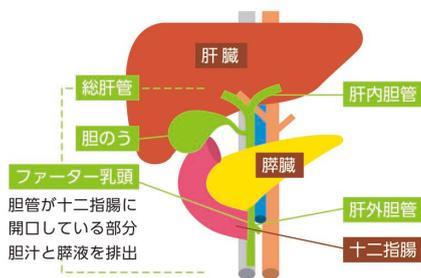
今回のテーマは前号に続き胆道がんの2回目です。  
今回は治療法についてです。

## 完治できる治療法は手術のみ

他臓器のがんと同様に治療法には手術、化学療法、抗がん剤治療がありますが、完治できる治療法は現在、手術のみです。

手術方法もがんの部位と進行度によりさまざまです。胆嚢(たんのう)の早期がんであれば、胆石症の手術と同じ「腹腔鏡下胆嚢摘出術」で完治しますし、胆管がんでも、肝外胆管を切除し、残った胆管と小腸をつなぎ直す手術で治せることもあります。肝臓の3分の2以上を切除しなくてはいけなかったり、膵頭部と十二指腸を切除し、胆汁の通り道、膵液の通り道、食べ物の通り道を作り直す大がかりな手術(膵頭十二指腸切除)をしなければいけないこともあります。完治は望めなくても、閉塞性黄疸\*を治すためのバイパス手術

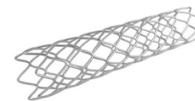
胆道と周辺臓器の構造



胆管が十二指腸に開口している部分  
胆汁と膵液を排出

などもあります。

切除による完治が不可能でも、消化管内視鏡を用いて、胃の先の十二指腸にある胆汁の出口であるファーター乳頭部から胆汁を消化管に誘導するステントというチューブを留置し、閉塞性黄疸を治し、抗がん剤治療や放射線治療で一定期間がんの発育を抑えることも可能になっています。



ステント (イメージ図)

## 定期健診ではエコー検査も

閉塞性黄疸が出る一歩手前の段階では肝機能異常が見られることがありますので、胆道がんの早期発見には定期健診が有用です。

血液検査だけでなくエコー検査を受けることも大切です。エコーで異常が疑われたら、さらにCT検査やMRI検査で診断を確定することが必要です。また、胆石を持っている人は胆石を持っていない人より胆嚢がんの発生率が高いことも知られています。

\*閉塞性黄疸…さまざまな黄疸のうち、何らかの原因により胆管が詰まり、胆管に溜まった胆汁の成分が血液に再吸収されておこる黄疸